

令和6年度 小平市立 上水中 学校 学校評価報告書

学校教育目標 ○自ら考え、進んで実行する人 ○心豊かで思いやりのある人 ○心身ともにたくましい人

目指す学校像(ビジョン)
 【目指す学校像】 「和」を基盤とした教育活動を展開する学校
 【目指す児童・生徒像】 ①「和」人間的な心の調和のとれた生徒 ②「和み」心穏やかに、楽しく学校に通い、自ら進んで学ぶ、心身ともに健康でたくましい生徒
 【目指す教員像】 ①「和(環)」PDCAサイクルを生かした授業改善で学力向上、体力向上を目指す教師 ②「和(輪)」保護者、地域との密接な連携による

前年度までの学校経営上の成果と課題
 ・具体的な方策の継続的な実施により授業の流れが定着し、生徒同士の対話的な活動も増加し、学力の向上につながる基盤づくりを行うことができた。
 ・デューラーライフや日々の生徒とのやりとりの中で、生徒の小さな心情の変化に気付くことができ、教員同士の情報共有により迅速に対応することができた。
 ・慣習にとらわれることなく、業務の改善や削減に向けた具体的な目標の提示・実行に取り組んだものの、業務改善および働き方改革にはなかなか結びつかなかった。

	具体的方策		第1回評価		成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	成果・課題・次年度以降の対策
	取組指標	成果指標	取組指標	成果指標		取組指標	成果指標		
学力向上	・本時の目標と流れの提示 ・教員の説明を減らし、端的な指示により生徒に考えさせたり、表現させたりする時間の確保と設定	3	4	・授業初めに目標と流れを適切に提示することにより、学習内容を明確に伝えられるようになっている。時間講師を含め、提示を徹底していく。 ・確実な知識・技能の習得があったうえで、生徒の対話的な活動や表現できる場の設定ができていく。	4	4	・生徒一人のパソコンが配付され、デジタル授業が進んできていると思いますが、生徒の学力向上に変化があらわれているのか。 ・デジタルの利用に関し、スムーズな学習進行、登下校時の荷物減少等メリットを多く感じます。先生が各教科ごとに違い、その内容への取組に工夫を感じます。 ・きめ細かな授業展開をしていると思う。	・本時の目標と流れを明確に示すことで、生徒が授業で何を学ぶのかイメージできている。課題として、対話的な活動などの生徒の学び合いと、教員主導型の授業のバランスであると考え。来年度に向けては、ICT機器を使用した活動により生徒の学びをどう充実させるか検討していく。また視覚支援教材の充実を図っていく。	
	・放課後の補充学習や再テスト実施による基礎・基本の定着 ・家庭での学習方法の例示、復習課題の明示 ・夏期学習教室等の充実	3	3	・基礎学力の定着のため確認テストを継続しているが、生徒の意識を高めるため、さらに充実させる必要がある。 ・スタディサブリの導入により、学習者用端末を活用して家庭でも学習できるようにしている。	2	3	・スタディサブリが導入されて、自宅などで活用している生徒が多い。課題として、学習の方法がわからない生徒への個別の支援が不十分であった。来年度に向けて、学年通信などで学習方法を提示していきたい。また、教科の特性上学力向上につながっているとは言えない面もある。		
いじめ防止(健全育成)	・生徒のアイデアを生かした学級・学年における取組 ・生徒が活躍する場面の意図的な設定とプラス評価	3	4	・生徒会本部や学級委員会などが企画するレクなどで生徒同士の交流を深める活動を増やしている。また、学校行事などで縦割りのクラスを意識させ、生徒同士の交流の場面を作っている。 ・委員会で自主的に実行させる場面を増やしている。	3	4	・いじめは無いようおきているのが現状だと思います。取組は、評価します。生徒は、「私いじめられています。」とは思わないと思います。目配りをお願いします。声掛けをお願いします。 ・スクール・ソーシャルワーカーの先生が上水だけでなく、小平三小でも見かけることがあり、情報収集や共有などしていただいていると思います。 ・学校行事等を通して、生徒一人一人が活動の場を広がっているように見受けられる。相談しやすい環境づくりを整えてほしい。 ・生徒からのちょっとした信号を見逃さない。傾聴する。生徒とのコミュニケーションがよく取れていると感じる。意識してもらえないです。	・体育大会や合唱コンクールで、他学年との交流を生徒主体で行うことができた。課題は、対象の生徒や活動の場が限定されているところである。来年度に向けて、生徒会や委員会活動の内容の見直しを行う。	
	・いじめ調査の実施、デューラーライフ等の活用による実態の把握 ・毎週の学年会・生活指導部による実態に基づいた組織的対応の検討と実施	4	4	・学級担任を中心に、休み時間の様子やデューラーライフの記述から生徒の変化を把握し、早期の組織的対応ができていく。 ・ふれあい月間のいじめアンケートを実施し、生徒からの聞き取りを行っている。 ・いじめの定義を確認し、いじめの未然防止を意識し、教員間で意識の差が生じないようにしている。	3	4	・日頃の学級活動や教科指導の中で、いじめや道徳的価値観についての指導を行うことができた。また、連絡帳のチェックを毎日行い、生徒の心身の変化に早期に対応することができた。課題としては、生徒の居場所づくりとしてどんな場面でも肯定的な言葉が出るような集団づくりを行う。来年度は、いじめアンケート内容の見直しや、生徒同士の関係性の変化にいち早く気付くよう教員間で連携をとる。		
業務改善・働き方改革	・週当たりの在校時間60時間以内 ・自ら休養日を設定し、適切な働き方を意識する。	1	1	・適切な働き方は意識しているものの、仕事量に応じて実践が難しい時期がある。 ・おまかせ校務やICT機器などを活用して、会議の時間の削減を目指す。 ・早く帰宅できるように、職員全体で仕事分担の負担のバランスを均等にできるように配慮する。	1	1	・学校運営協議会の中で、1学期の通信簿のコメントの廃止の話がありました。教職員の働き方改革は、大変難しいと聞いています。「出来ることからやる」ことが大事だと思います。 ・仕事量など工夫することで残業を減らしていることは良いと思います。ただ、働く環境、仕事への意欲も大切であると思います。数値だけ見るのではなく、楽しくやりがいのある職場であってほしいと思います。 ・努力しても改善しきれない事は、1つの学校だけの問題ではないと認識した。 ・当たり前の業務とされる項目を減らすこと。勇気を持って。	・ICT機器の活用により、事務作業の短縮化が図れた。課題として、通知表の所見の簡略化や出欠席のICT化、部活動の地域移行など、更なる業務の短縮化を図る。また、授業数や担任業に配慮して校務の分担を行う必要があると感じる。来年度は、1週間あたりの授業数や会議の時間を考慮して、学年の校務を調整していく。	
	・会議の精査や学校行事の精選、ライフワークバランスなどについての自己申告書への具体的な目標提示と取組	1	1	・会議の開催数の精査を行い、急ぎでないものは次回に申し送る。 ・行事などの校内で取り組む内容が多く、自己申告書に提示した目標にたどり着いていない。	1	1	・行事の実施時間や準備時間について再検討する必要があると考える。生徒の充実した活動は、長い時間行うことではなく、限られた時間の中でどのようなものを創り上げるかが重要であると考えている。来年度は、よりよい働き方改革を学年・学校全体で検討していく。		
特色ある教育活動	・校内研修で場面に応じてICT機器を効果的に活用した授業の実践及び検証	4	4	・学習者用端末の積極的な活用が進んでいるが、新たに導入されるものが多く、活用に偏りがある。 ・おまかせ校務の研修不足や、デジタルとアナログの混在により、二度手間になっている部分がある。	4	3	・不登校児童・生徒が増えているようですね？特色ある教育活動に対策が整いつつあります。支援対策内容の記載がありませんが、良い対策が委員会で協議されることを期待しています。	・スタディサブリやロイノートについては、今後も積極的に実践活動に生かせるよう取り組んでいく。次年度においても研修の機会を利用し、学校全体としてICT化を推進していく。	
	・家庭との連携を密に行い、学校の支援体制について周知する	4	4	・スクールメールや学年通信を活用して、学校の情報を共有している。 ・登校が安定しない生徒を含め、電話連絡や家庭訪問など、保護者と生徒に配慮して支援を行っている。校内支援委員会を中心に、支援体制が整いつつある。	3	3	・上水さくら学級について、ボランティアへの参加、地域行事への参加、地域の方との交流も大切な活動であり、豊かな学びがあると思います。個人を尊重する事も大事だと思いますが、学校という団体としての学びもほしいです。 ・デジタル教育の導入で、現場の混乱は、まだ続くだろう。他校とも情報共有等していく必要もあると思う。 ・今の状況を維持して研修体制を確立してほしい。	・不登校生徒はこの2年間で減少傾向にある。新たな居場所の確立やチャレンジクラスの設立によって、登校スタイルの選択肢が拡充された。来年度は、未然に防止できるように日頃の指導に力を入れていく。バザパ教室の利用については個々に応じて流動的になるのではなく、ルールを明確にして運用していく。 ・チャレンジクラス「上水さくら学級」では、学校に毎日登校することを目標に活動を行っており、登校可能な生徒に関しては少しずつ団体での活動を通して人との関わり合いを学習している。次年度以降から、さらに活動の範囲を地域等にも広げていきたい。	